

ラン・フォー・ビジョン®

20年の歩み

第1回大会は、今から20年前の1998年10月10日、目の愛護デーと体育の日にちなんで開催したのが始まりです。アイバンク啓発活動として、一人でも多くの方に「目の見える喜び」を知っていただく良い機会になれば、と始めました。その名も「光に向かって走ろう!」イコール「Run for Vision®」です。もともとこれは、アメリカアイバンク協会がアメリカ眼科学会の中で、走った分だけ募金する形で始め、今も続いているチャリティー・ラン・イベントの名前です。これを角膜センターでも取り入れ、その後、皆様に浸透し、商標登録をするまでに至りました。そして、何より、視覚障害者ランナーも晴眼者も一緒になって安全に楽しく走れるというのが、この大会の目指すところでした。本大会はチャリティーランニング大会ですので、多くの方々のご理解とご賛同、そしてご寄付によってはじめて成り立つ会です。

20年間、秋空の下、大勢のランナーと一緒に汗を流してきました。第1回～第15回大会までは、集会場所を千鳥ヶ淵公園(半蔵門側)とし、そこからスタート、ゴールするというものでした。(社)東京陸上競技協会の審判員による計時・計測があり、今思うと昔ながらの計測方法は、200人ほどのランナーに対してはさぞかし大変だったろうと思います。第11回大会からは、計測チップを導入しましたが、世のランニングブームも重なって、皇居外周のランニングにもいろいろと規制がかかるようになりました。第16回大会からは、スタート、ゴールが桜田門地点になり、そのため、集会場所も日比谷公園の健康広場に移ることになりました。と同時に、計測することが不可能となりましたが、タイムは気にせず、自分のペースで走る、を合言葉に楽しく走っていただくことができました。といっても、19回には、沢山のご要望により、桜田門でも計測できるようなシステムを取り入れ、計測を復活させたところでした。

この楽しいランニング大会の裏には、支えてくださったボランティアの方々がたくさんいらっしゃいます。

まずは競技を全面で支えてくださった東京視覚障害者ランニングクラブの方々。コース係員をはじめ、視覚障害者ランナーのフォローアップなど、彼らがいなければ、この大会は成立しなかったといつても過言ではありません。

第9回からは、お正月の箱根駅伝でお馴染みの関東学生陸上競技連盟の学生選手たちによる視覚障害者ランナーの伴走が始まり、はつらつとした若いパワーで、大会を大いに盛り上げてくれました。

お陰様で大会が大きくなるにつれ、エントリーの数も300名を超すようになると、AED救護隊として国土館大学 防災・救急救助総合研究所にお願いし、コース上でランナーの安全を見守っていただきました。これまで大きなケガ人など出さずに、安全に行ってこられたのは、このようなサポートがあってのことです。また、東京麻布ライオンズクラブの皆様は、普段からアイバンク活動にご支援いただいている強力なサポーターですが、献眼登録推進運動から地点誘導・給水所など幅広く大会を支えてくださいました。

さらに協賛企業各社には、金銭面だけなく、実行委員、ボランティアとして会の運営面でも惜しみないご協力を頂きました。

その他、たくさんの皆様が支えてくださいましたこと、改めて心より感謝申し上げます。

そして、この会の功労者は参加くださったランナーの皆様であることは言うまでもありません。

これまでこの会の趣旨に賛同しエントリーしてくださった総勢4,500人の皆様、お一人お一人に、この場をお借りし、お礼を申し上げたいと思います。**20年間「ラン・フォー・ビジョン®」を愛してくださいありがとうございました!**

第1回大会スタート



視覚障害者も伴走者も晴眼者も一緒に



第19回桜田門前スタート



歴代のTシャツたち

6th Run for Vision



第6回ポスター
瀬古利彦監督(当時)が参加